

# 欧米病院爆発に疑念

## 「死者最大50人」分析も

パレスチナ自治区ガザの病院爆発を巡り、ガザを実効支配するイスラム組織ハマスの説明に疑念が出てい

る。ハマスの管理下の保健当局はイスラエル軍の空爆で471人が死亡したと述べているが、バイデン米大統領はイスラエル軍の関与を否定し、欧州では「死者は最大50人」との分析も。真相不明のまま、イスラム圏では反イスラエル感情が激しさを増している。

ガザ市中心部のアルアハリ・アラブ病院で17日夜、爆発があり、多数が死亡した。ハマスは当初から500人以上死亡と強調。医療機関への攻撃ということもあって衝撃的に報じられ、バイデン氏は18日に予定し

ていたヨルダン訪問の中止に追い込まれた。イスラエル軍は直後から軍の空爆を否定。ガザの

過激派「イスラム聖戦」が発射したロケット弾の誤射だと反論し、バイデン氏は19日の演説で「イスラエルの仕業ではない」と断言した。

現地の映像では、病院駐車場の車に被害が出たが地面に大きな着弾痕はなく、建物も大きく損壊していな

いため、イスラエル軍のミサイルより威力が弱い兵器との見方が出ている。

欧州メディアによると、欧州情報筋は「死者は最大50人だろう」との見方を示した。AP通信によると、米政府は死者数を推

定100〜300人の「下の方」と分析。イスラエル軍報道官は500人死亡との主張に「遺体はどこにあるんだ」と疑問を投げかけた。反イスラエルの機運を高める目的で「ハマスが被害を誇張した」との報道も

出ている。中東のアラブ・イスラム諸国ではハマスの説明を受け、反イスラエルの抗議デモが活発化。レバノンやヨルダンでは治安部隊との衝突に発展するなど、情勢は流動化している。